

発行で、慶応四年閏四月十八日から十月十八日までを記しており、病院の入院患者に関する研究に際しては、AからBの3までの四種の日誌を日記と比較しつつ調査する必要があることが解かった。

五、そして横浜軍陣病院が、慶応四年七月二十日に設立された東京大病院の支営の立場におかれ、大病院を支配取締した機関が、東京府、鎮將府（九月十三日から十月十八日まで）、そして東京府と変った点も考慮に入れて調査研究をする必要性も存在することが解かった。

（平成九年九月例会）

荒川保雄：虱に賭けた四十年の生涯

佐分利 保雄

荒川保雄は明治二十六年会津に生まれ、大正六年東京農科大学を卒業した。大正十一年ユタ州立農科大学に入学、昆虫学を専攻し、大正十四年に卒業、理学士の称号を得た。大正十五年、南満州鉄道（株）に入社、農事試験場公主嶺支所、熊岳城支所の病理昆虫科にて、主としてコロモジラミの研究に専念し、千数百枚におよぶ学位請求論文を完成させ、休暇を得て、帰省中、平町（いわき市）四倉海岸にて急逝した。四十歳であった。先輩、僚友、遺族によって、この論文を「衣虱の研究」と題する単行本とし、満鉄の奨学資金により自家出

版された。その内容をみると、東北人のねばりに西洋人の合理主義が加わり、繰り返し行われた実験の生データがそのまま記載されており、読むに難渋するほどであるが、六十年を経た今日でも、この本が他の研究文献に引用されていることは、彼の業績が高く評価されている証拠であろう。

二百二十一頁のうち、百五十八頁は生態学的研究に、二十二頁が解剖生理、十八頁が病原体の媒介に、残る頁はケジラミなどの記載に費やされている。

彼は日本を代表するしらみの研究者であったが、序文にもあるように「天彼に貸すに幾ばくの余命をもつてするならば、学会最高の榮譽を担い得たであろうものを……」まことに惜しいことであった。熊岳城分場長、渡辺柳蔵らの論文刊行委員により、一周忌にこの大著が出版され、世に出たことは、ご遺族の喜びとともに、後学者の為に大いなる遺産を残したと言うべきであろう。

（平成九年九月例会）

ペスト残影シリーズ その八

ライン川中流域に「ペスト残影」を求めて

滝上 正

第三回本大会で発表した後、さらに、ライン川中流域で確認できたペスト残影について紹介したい。

一つの疾病について、各地に多数の記念ないしは残影を認めるということは、ペスト以外には例を見ないことで、ペストの被害の深刻さ、それから逃れたいという人々の切なる願いを、そこに見ることができるといえる。

一 ボンの市内にあるキリスト磔刑の石塔は、一六六六年の当地方のペスト流行時にペストから回復した一夫婦が感謝をこめて建てた塔である。また、ボン大学医史学教室には、一七二九年ローマで発行された健康証明書が保存されている。ペスト流行時、旅行者が市門に入るとき、これを提示して許可を求めた。

二 バードホネフの一部落において、一六六六年に流行のペストでは、十二人しか生き残らなかつた。そのうちの二人が、感謝のしるしに建てたという「アンナの小祠」がその部落内にある。また、生き残つた町の人々が感謝して、聖セルバチウスに捧げた同名の礼拝堂が町外れの山の中にある。

三 アンデルナッハはペスト医師ウインテルの生誕地であり、彼の名を冠したウインテル博物館がある。また、この町には小さなペストの塔も見られる。

四 ビンゲンの町当局は、一六六六年に流行のペスト鎮圧を、ペストの守護聖人ロフスに願つてかなえられたので、当局が感謝をこめて、ロフス礼拝堂を同名の山に建てた。堂内の主祭壇には聖人ロフスが祭られ、また、側廊には「ペスト祭壇」がある。

五 アイフェル火山帯の中央部、トーテンマール湖の湖畔に

あつたウインフェルドの部落は、十六世紀前半のペストの流行で壊滅し、今ここには、無人の礼拝堂と、墓地のみが残っている。

(平成九年九月例会)

ケガレの思想の歴史的展開

杉田暉道

ケガレは日本人特有の宗教感覚である。歴史事典には「罪も禍も皆同じくケガレで悪霊の仕業と考える」とある。ケガレをもう少しわかり易く説明すると、たとえばわれわれが日常使っている、自分の茶のみ茶碗を自分の子供に「これはわたしが二十年使っていたもので、熱湯消毒したから全く汚れていない。だからお前にやろう」といっても、子供は喜んでこれを受けとらない。この感覚がケガレである。ケガレの思想は古くから存在し、すでに古代インドの『マヌ法典』(AD二世紀に成立)にその記述がみられる。すなわち、出産、性交、排泄行為、経血、死などの根源的な生命現象によつて生ずる、十二種の物質およびこれに関係した職業を、ケガレが生ずる強力な源とした。この思想は日本では『古事記』、『祝詞』にみられる。『古事記』では、「いざなぎの命は、ウジのわいたいざなぎの命(いざなぎの命の妻)の死体を見たためにケガレた体になるが、清めの儀式を行うことにより、日本の主要神